

PLACER

Vol.4

The 32nd Interim Business Report

第32期 中間事業報告書 2004年4月1日から2004年9月30日まで

To Our Shareholders ...P1

株主の皆さまへ

新規則への移行をチャンスに、
高付加価値と営業力でシェアを高めます。

ダイコク電機最前線 **Fade in** ...P3

- ダイコク電機初の有料セミナー開催
- 個人投資家向けIRイベントに出展

● 営業のご報告 ...P5

DK DAIKOKU DENKI

証券コード：6430

新規則への移行をチャンスに、 高付加価値と営業力でシェアを高めます。



代表取締役社長 小山 晴久

●新規則改正前需要と市場の評価により、増収・増益を達成

当中間会計期間におけるわが国経済は、堅調な輸出や設備投資により企業収益の改善を示しましたが、原油価格高騰などにより個人消費の回復にはまだ不安要素が見受けられます。

当社が関わるパチンコ業界においては、7月1日より「風俗営業等の規制及び業務の適正化等に関する法律施行規則」及び「遊技機の認定及び型式の検定等に関する規則」の新規則が施行されたため、今秋以降発売開始予定である新規則準拠の遊技機の

導入を前にして、パチンコホール内の設備を強化する動きが多く見られました。

こうした状況下、当社の情報システム事業では、全面的な機能強化を果たしたホールコンピューティングシステム「C」が、市場の高い評価を受けて予想を上回るペースで納入が進み、前年同期より増収となりました。

一方、制御システム事業では、新規則に準拠した遊技機の市場への投入が期待されましたが、検定に適合した遊技機はなく、各遊技機メーカーとも旧規則に準拠した遊技機での販売を余儀なくされ、昨年来からの一部機種に人気が集まる傾向が続きました。しかしながら、当中間会計期間末になり、当社が手がけた表示ユニットを搭載した機種が市場で大きく評価されたことにより、前年同期に比べ増収となりました。

以上により、当社の当中間会計期間の業績は、売上高204億92百万円(前年同期比28.2%増)、営業利益25億86百万円(同72.3%増)、経常利益27億22百万円(同50.9%増)、中間純利益14億88百万円(同40.3%増)となりました。

●目標達成に向けた部門別の課題と取り組み

<情報システム事業>

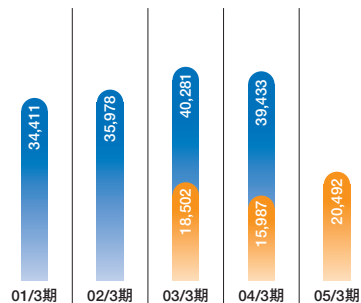
コンサルタント営業力の強化と大手非ユーザー獲得を推進

まもなく市場に投入される新基準機をパチンコホールで有効

Key Financial Data 主要財務データ

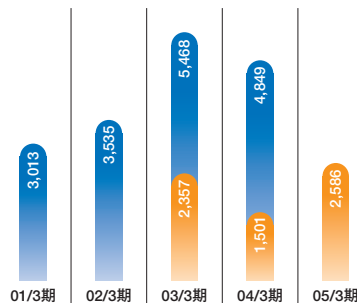
売上高

●通期 ●中間期 (単位:百万円)



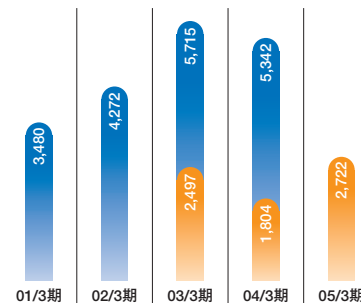
営業利益

●通期 ●中間期 (単位:百万円)



経常利益

●通期 ●中間期 (単位:百万円)



に活用していただくためのセミナーの開催とともに、全国の営業社員のコンサルタント営業力を強化しております。大手非ユーザーに対しても、各拠点の営業社員と特販グループが連携して、新規開拓を強力に推進してまいります。

高付加価値化により製品競争力を強化

DK-SISとの融合をはかるため、ホールコンピューティングシステム「C」の大幅な機能強化を実現しました。予想を上回るユーザーの評価を得て、業績も順調に推移しております。今後も高付加価値化による製品競争力を強化してまいります。

工事・メンテナンス体制の強化

技術・サービス面の顧客満足度向上をはかるため、社員、協力会社への技術研修体制を一段と強化しておりますが、下期においても継続的、計画的な研修活動を実施してまいります。

<制御システム事業>

1機種当たり販売台数増により収益性を改善

昨年来の遊技機メーカーによる販売機種数の増加傾向は一段落しつつも、1機種当たりの販売台数は依然減少しております。これに対処するため、DK-SISによる実機の営業データの有効活用と遊技機メーカーへの販売支援体制を強化することにより、1機種当たりの販売台数を伸ばしてまいります。

顧客の評価を高める製品創り

パチンコ遊技機は、大型で高精細の液晶表示が市場で評価される傾向にあります。昨年4月に開設した「表参道デザインスタジオ」も軌道に乗り、液晶表示ソフトの質が高まり、顧客からの高評価を受けております。他社の追従を許さない製品創りはもちろん、遊技機全体の総合的なプロデュースも含めた、付加価値

の高い製品開発に努めます。

規則改正を機にマーケットシェアをアップ

本年7月に「遊技機の認定及び型式の検定等に関する規則」の新規則が施行され、バリエーション豊富な遊技機の開発が可能となりましたが、上期には新規則に準拠した遊技機の検定では適合に至るものはありませんでした。下期からは多様な機種が本格的に市場投入され、競争が激化します。独自の提案・開発が可能となる規則改正を機に、開発体制を強化し、各遊技機メーカーへの提案営業活動によるシェアアップを推進します。

●パチンコ産業の新しい成長を生み出すために

本年11月以降、新規則に準拠したバリエーション豊かなパチンコ遊技機が市場投入されます。パチンコホールでの営業における緻密なデータ分析の必要性から、機能面で優れるホールコンピューティングシステム「C」の需要が増加し、また、多様なタイプのパチンコ遊技機の開発依頼が増すものと思われます。

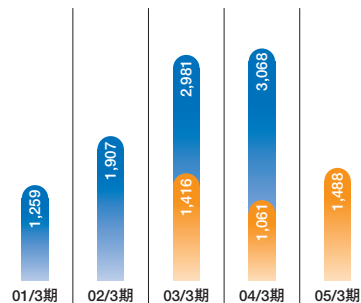
こうした規則改正の影響による需要増から、平成17年3月期の通期業績は、売上高は435億円（前期比10.3%増）の見込みですが、利益は開発費の先行投資や設備投資、会員権評価損等により、経常利益53億50百万円（同0.1%増）、当期純利益 29億50百万円（同3.9%減）を見込んでいます。

当社は、独自の発想と技術力で時代の変化を読みとり、ニーズを先取りする市場創造型製品の提案により社会に貢献するという基本方針のもと、パチンコ産業の新しい成長を生み出す「アミューズメントインフラ」を提供してまいります。

株主の皆さまには、引き続きご理解とご支援をよろしくお願いいたします。

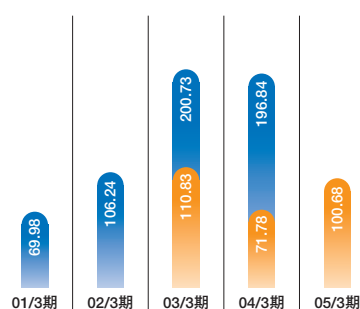
中間(当期)純利益

●通期 ●中間期 (単位: 百万円)



一株当たり中間(当期)純利益

●通期 ●中間期 (単位: 円)



通期の見通しに関する注意事項

本冊子に記載されている市場予測や業績見通しは、当社の経営陣が現在有効な情報に基づき判断したもので、その実現には潜在的リスクや不確実性を含んでおり、さらに業績に影響を与える要因はこれに限定されるものではありません。したがって、諸要因の変化により実際の業績は記載事項と大きく異なる結果となる可能性があります。これをあらかじめご承知おきください。

ダイコク電機初の有料セミナー開催

パチンコホール経営者及び実務責任者向けに当社初となる有料のDK-SISセミナーを2004年10月12日から、全国7会場(名古屋・福岡・仙台・東京・大阪・札幌・郡山)で開催いたしました。

セミナー有料化に対して、お客様の出足を心配しておりましたが、名古屋254名、福岡210名、仙台133名、東京630名(2日間)、大阪301名、札幌88名、郡山98名、合計1,714名と各会場で定員を大幅に上回るお客様にご来場いただくことができました。

二部構成で行われた今回のテーマは、「新基準機導入による市場動向予想」と「新基準機活用、勝ち組への未来予想図」という、本年7月1日から施行されたパチンコ遊技機規則改正による『新基準機』に焦点をあてたタイムリーな内容で実施できたことが、成功に結びついた要因と思われる。また、遊技機メーカーの新基準機展示会と時期が重なったことで、多くの方からの高い関心を引いていたことも、要因のひとつだと思います。

セミナー終了後実施したアンケートでは、講義内容に対し予想以上の反響があり、改めて当社の特徴のひとつでもあります「DK-SIS」の遊技機に対する高度な分析力に対し、評価をいただく結果となりました。

今後とも、このようなタイムリーでパチンコホールにとって有効なセミナーを全国で展開し、業界のオピニオンリーダーとして常に新しい提案を続けてまいります。



個人投資家向けIRイベントに出展

当社は当中間会計期間におきまして、ふたつの個人投資家向けの大型IRイベントにブース出展を行いました。

当社ブースでは、事業内容や業績推移のパネル展示の他に当社制御ユニット搭載のパチンコ遊技機デモ展示や情報システム事業部門の製品展示を行い、ブースに来場された個人投資家の皆さまへ企業概要、製品の特徴、業績、財務内容について説明を行いました。

イベントを通じて多くの方とお話することができ、厳しいご意見や、お褒めの言葉を皆さまからいただきました。中には2002年上場時からの株主さまもお見えになり、こういう機会でない、うかがえないお話を聞かせていただけたことはとても貴重であり、今後のIR活動に役立てていきたいと考えております。なお、皆さまにはアンケートにご協力いただきましてありがとうございました、この場を借りましてお礼申し上げます。



ノムラ資産管理フェア



名証IRエキスポ2004



情報表示端末インフォメーションスクエア「スクエアロボ」

50インチの迫力ある大画面をタッチして、魅力あふれる台データや、お店のインフォメーションを提供します。1画面に16台分のグラフを表示する「グラフ一覧」や、9日分のグラフと大当り履歴を表示する「指定台データ」、更新日付を表示する「インフォメーション」など当社ならではの業界初の新機能が満載です。



1画面で最大16台分のグラフを表示します。一目で台データと比較できます。



本日分を含め9日分のグラフを表示します。先週の同一曜日のデータを確認でき、大きな波も見えてきます。



優秀台を検出したら、瞬時に臨場感あふれる迫力の映像と音声でホールの出玉演出に貢献します。

コンプライアンス宣言

当社は、企業品質方針として「顧客からの支持は、継続的業績発展につながる」を掲げておりますが、これは、当社が社会的責任を果たすための重要な指針でございます。そして、私達はそれを実現するために、社会の一員として信頼を受ける企業であり続けるべく努力してまいりました。

昨今役員、従業員の倫理観が企業の存続にまでも影響を与える時代になってきており、当社が、役員、従業員一人ひとりの行動の積み重ねによって、ステークホルダーから社会的評価を獲得し、企業として存続・発展していくためには、役員、従業員がこれまで以上に高い倫理観を持って行動することが求められます。

したがって、当社は、「コンプライアンス」を経営指針のひとつとして掲げ、役員、従業員が法令を遵守することはもとより、社会規範を尊重し高い倫理観に則った行動をより徹底するため、本年6月コンプライアンス委員会を設置し、コンプライアンス宣言を掲げました。当社は今後も企業品質の向上を目指した経営に取り組んでまいります。

ホームページにも当社の「コンプライアンス宣言」につきまして記載してありますので、ご覧ください。

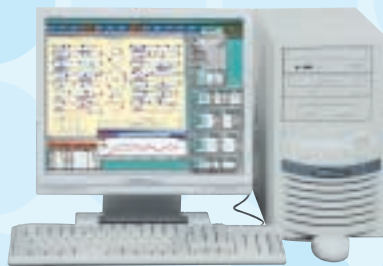
<http://www.daikoku.co.jp/compliance.html>

●情報システム事業

売上比率
58.0%

当中間会計期間におけるパチンコ業界は、本年7月1日より、「風俗営業等の規制及び業務の適正化等に関する法律施行規則」及び「遊技機の認定及び型式の検定等に関する規則」の新規則の施行を前にして、全国規模でパチンコホールの新装・改装等設備投資が活発になり、前年比17%*の増加となりました。

そうした環境下、当事業部門では全面的に機能を強化したホールコンピューティングシステム「C」が市場の高い評価を受け、予想を上回るペースで順調に納入が進んだこと、また呼出ランプ「IL-90C dash」では、遊技機市場の動向に沿った仕様を追加したことで市場に受け入れられ、業績に大きく貢献しました。また、現在パチンコホールは同様の機種構成により他店と差別化ができないという状況から、営業演出機器に関心が向けられております。この営業演出への提案によって、「C」の納入と連動してスクエアロボなど情報公開機器が好調に推移し、1店舗当たりの単価アップがはかられました。



ホールコンピューティングシステム「C」

パチンコホールの台管理・景品管理・顧客管理・映像管理・情報公開システムの総合営業管理を行い、パチンコファンの来店誘発の演出とセキュリティ強化に着目したホールコンピュータシステムです。台データ管理機能は従来の基本性能を継承し、新しく柔軟性と拡張性を実現しました。



呼出ランプ ロボパートナー IL-90C dash

「C」のネットワークとなるI/O基板により制御された呼出ランプです。ベスト台で大当たりが発生した場合、光フローが流れるタイミングでベスト台の大当たり回数を他の台に表示します。パチンコとパチスロの2タイプが有り、パチスロ用では大当たり最高継続回数や最高獲得枚数表示に加え、100回以上(max199回)の大当たり回数を表示できますので、パチンコファンに出玉感を与え遊技する楽しみが広がります。

その結果、開示区分別売上高は、ホールコンピュータで35億円(前年同期比27.3%増)、情報公開システムでは31億16百万円(同58.4%増)となり、当部門の売上高は、118億82百万円(同35.2%増)と前年同期より増収となりました。

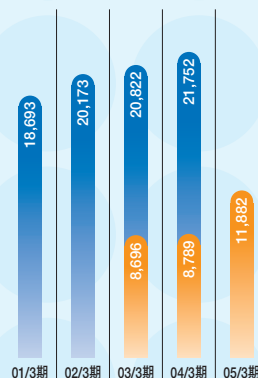
通期におきましては本年11月以降、新規則に準拠したバリエーション豊かなパチンコ遊技機が市場に投入されます。新基準機は大当たり確率や賞球数等が従来までの遊技機と異なる仕様になっております。パチンコホールでの営業に際して、今まで以上に緻密なデータ分析が重要となりますので、機能面で優れる当社ホールコンピューティングシステム「C」の需要は着実に増加するものと思われます。

今後も顧客のニーズにあった製品開発と時流にあったセミナーの開催や業界唯一の営業分析ネットワークであるダイコク電機戦略情報システム「DK-SIS」の必要性を訴える提案型営業により業績向上に努めてまいります。

*パチンコホールの補給装置及びホールコンピュータ製造企業の団体である補給組合が発行する、ホールコンピュータに関する特許使用の許諾証発行件数で比較しており、実質パチンコホールの新装・全面改装の件数比較となります。

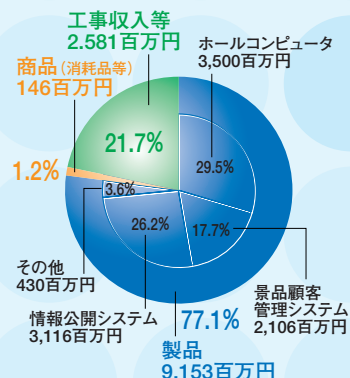
●情報システム事業売上高

●通期 ●中間期 (単位：百万円)



●情報システム事業売上高構成比

(百万円未満は切捨て)



● 制御システム事業

売上比率
42.0%

本年7月1日の遊技機規則改正により、業界は今後大きく変貌すると思われませんが、当中間会計期間におきましては、この新規則に適合した遊技機はありませんでした。

したがって遊技機市場は、旧規則に準拠した遊技機での販売競争となったため、パチンコ・パチスロともに昨年来からの一部の機種に人気が集まる傾向に変化は見られませんでした。

このような市場環境の中、当事業部門は、昨年4月に開発力強化のために東京に開設しました「表参道デザインスタジオ」が本格稼働し始め、結果が出せる体制となりつつあります。出荷数量は、表示ユニットで10機種、15.8万台(前年同期比66.3%増)、制御ユニットで7機種、7.9万台(同68.1%増)と前年同期を大きく上回り、売上は表示ユニットとスイッチ等オートメーションパーツの部品が好調で、当部門の売上高は、86億10百万円(同19.6%増)となり、前年同期より増収となりました。

通期におきましては、パチンコ遊技機で本年11月より新基準機が市場に投入されますが、第1種セブン機、第2種羽根ものなどの種別の撤廃により、ゲーム性の高いバリエーション豊富な遊技機の開発が可能となり、当社への開発依頼も今後増えてくると予想されます。

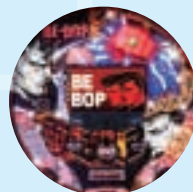
一方パチスロ遊技機は、射幸性が抑制され、新規則に準拠した遊技機の市場での評価も極めて不透明な状況になっています。

当事業部門では、今後も軌道に乗ってきた「表参道デザインスタジオ」をさらに強化し、開発力を高めるとともに、ダイコク電機戦略情報システム「DK-SIS」の持つ絶対優位性を活かし、さらなる提案力の強化を目指してまいります。

● 当社ユニット搭載の主なパチンコ遊技機



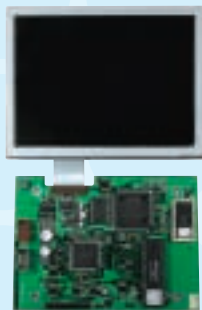
CR 加トちゃん・こぶ茶バンド編
©イザワオフィス/office cha
奥村遊機株式会社



CR ビーバップ
©きょうかずひろ/
講談社(ヤングマガジン)/アミューズ
株式会社サンセイアールアンドディ



CR 超海
株式会社ニューギン



表示ユニット

パチンコ遊技機のゲーム内容を表現する部分で、ハードウェアとそれに搭載されるプログラムから構成されます。



制御ユニット

基本動作をつかさどるハードウェアとそれに搭載されるプログラムから構成され、パチンコ遊技機の心臓部といえます。

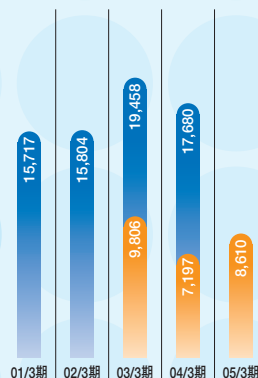


商品(部品)

パチンコ遊技機に使用される液晶パネル、スイッチ、ソレノイドなどのオートメーションパーツの仕入販売をしています。

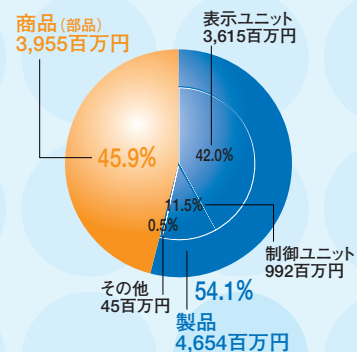
● 制御システム事業売上高

● 通期 ● 中間期 (単位: 百万円)



● 制御システム事業売上高構成比

(百万円未満は切捨て)



●資産・負債・資本の状況

当中間会計期間末における総資産は、前事業年度末と比較し現預金、たな卸資産及びソフトウェア等が増加しましたが売上債権の減少や保証金の返還及び会員権の評価損による引当金の追加計上等により14億70百万円減少の428億52百万円となりました。

負債は、前事業年度末と比較し仕入債務の減少及び借入金の返済等により20億61百万円減少の213億86百万円となりました。これにより株主資本は、前事業年度末と比較して5億90百万円増加の214億65百万円となりました。

●中間貸借対照表（要旨）

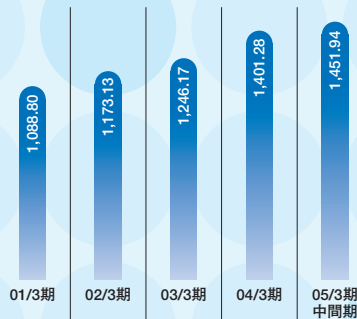
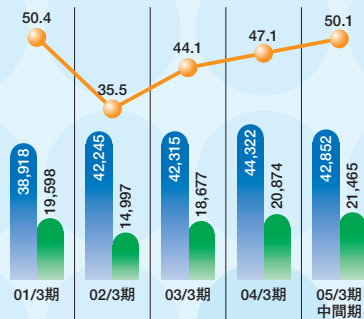
科 目	前中間期	当中間期	前期
	2003年9月30日現在	2004年9月30日現在	2004年3月31日現在
資産の部			
流動資産	21,886	26,545	27,525
固定資産	16,458	16,306	16,797
有形固定資産	7,963	7,868	7,986
無形固定資産	1,276	1,705	1,582
投資その他の資産	7,218	6,732	7,228
資産合計	38,344	42,852	44,322
負債の部			
流動負債	13,912	16,270	18,260
固定負債	5,565	5,116	5,187
負債合計	19,478	21,386	23,448
資本の部			
資本金	674	674	674
資本剰余金	680	680	680
利益剰余金	17,508	20,106	19,515
その他有価証券評価差額金	3	4	5
資本合計	18,866	21,465	20,874
負債及び資本合計	38,344	42,852	44,322

(単位：百万円、百万円未満は切捨て)

●総資産 ●株主資本 (単位：百万円)

●株主資本比率 (単位：%)

●一株当たり株主資本 (単位：円)



●中間損益計算書(要旨)

科 目	前中間期	当中間期	前期
	2003年4月 1日から 2003年9月30日まで	2004年4月 1日から 2004年9月30日まで	2003年4月 1日から 2004年3月31日まで
売上高	15,987	20,492	39,433
売上原価	10,364	13,181	26,058
売上総利益	5,622	7,311	13,374
販売費及び一般管理費	4,121	4,724	8,524
営業利益	1,501	2,586	4,849
営業外収益	411	216	694
営業外費用	108	80	202
経常利益	1,804	2,722	5,342
特別利益	0	—	2
特別損失	59	360	76
税引前中間(当期)純利益	1,745	2,362	5,268
法人税、住民税及び事業税	660	1,030	2,030
法人税等調整額	24	△ 156	170
中間(当期)純利益	1,061	1,488	3,068
前期繰越利益	1,383	1,562	1,383
中間(当期)未処分利益	2,444	3,050	4,451

(単位:百万円、百万円未満は切捨て)

●中間キャッシュ・フロー計算書(要旨)

科 目	前中間期	当中間期	前期
	2003年4月 1日から 2003年9月30日まで	2004年4月 1日から 2004年9月30日まで	2003年4月 1日から 2004年3月31日まで
営業活動によるキャッシュ・フロー	△ 1,144	5,073	1,863
投資活動によるキャッシュ・フロー	△ 96	△ 720	△ 535
財務活動によるキャッシュ・フロー	△ 903	△ 1,542	△ 1,609
現金及び現金同等物に係る換算差額	6	—	6
現金及び現金同等物の増減額	△ 2,138	2,811	△ 275
現金及び現金同等物の期首残高	10,940	10,664	10,940
現金及び現金同等物の中間期末(期末)残高	8,801	13,476	10,664

(単位:百万円、百万円未満は切捨て)

●損益の状況

当中間会計期間における売上高は、情報システム事業ではホールコンピューティングシステム「C」の販売が好調に推移したことと、制御システム事業では表示ユニットの売上が増大したこともあり、前中間会計期間に比較し45億5百万円増加の204億92百万円となりました。これにより営業利益は、前中間会計期間と比較し10億85百万円増加の25億86百万円となりました。経常利益は、保険収益金が減少したにもかかわらず、前中間会計期間と比較し9億18百万円増加の27億22百万円となりました。中間純利益は、特別損失の会員権評価損等の計上があったにもかかわらず前中間会計期間と比較し4億27百万円増加の14億88百万円となりました。

●キャッシュ・フローの状況

当中間会計期間における営業活動により得られた現金及び現金同等物(以下「資金」という。)は50億73百万円であり、たな卸資産の増加及び仕入債務の減少にもかかわらず税引前中間純利益が23億62百万円であったことや、売上債権の大幅な減少等が大きな要因であります。

当中間会計期間における投資活動により使用した資金は7億20百万円であり、これは保証金の返還があったものの固定資産の取得による支出があったことによります。

当中間会計期間における財務活動により使用した資金は15億42百万円であり、これは借入金の返済及び配当金の支払いによるものです。

この結果、当中間会計期間末における資金は、前事業年度末に比較して28億11百万円増加して134億76百万円となりました。

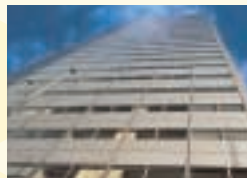
Corporate Profile

● ● ● 会社概要 (2004年9月30日現在) ● ● ●

- **商号** ダイコク電機株式会社
DAIKOKU DENKI CO., LTD.
- **創業** 1964年12月
- **設立** 1973年 7月
- **資本金** 6億7千4百万円(発行済株式総数14,783,900株)
- **本社** 名古屋市中村区那古野一丁目47番1号
名古屋国際センタービル2階
- **従業員数** 正社員数410名 準社員数70名
- **事業内容** パチンコホール向けコンピュータシステムの開発・製造・販売
パチンコ・パチスロ遊技機用ユニットの開発・製造・販売

● 役員	代表取締役社長	小山 晴久
	代表取締役副社長	栢森 雅勝
	代表取締役専務	栢森 秀行
	常務取締役	江川 正行
	常務取締役	栢森 健
	取締役	伊東 幹夫
	取締役	香川 芳夫
	取締役	伊藤 茂年
	取締役	泉家 邦雄
	取締役	平原 正義
	取締役	岩根 節雄
	取締役	堀田 昌郎
	取締役	國保 徳丸
	常勤監査役	山崎 健二郎
	監査役	田中 正雄
	監査役	敷田 稔
	監査役	村橋 泰志

(注) 1. 取締役 堀田昌郎氏、國保徳丸氏は、
商法第188条第2項第7号ノ2に定める社外取締役であります。
2. 監査役 田中正雄氏、敷田稔氏、村橋泰志氏は、
「株式会社等の監査等に関する商法の特例に関する法律」第18条
第1項に定める社外監査役であります。



本社



本部事業所

● 事業所一覧

- **本社** 〒450-8640 名古屋市中村区那古野一丁目47番1号
名古屋国際センタービル2階
TEL(052)581-7111(代表)
- **本部事業所** 〒480-0395 春日井市坂下町1丁目875
TEL(0568)88-7111
- **高蔵寺事業所** 〒487-0014 春日井市気噴町一丁目2番地
TEL(0568)51-7111
- **春日井事業所** 〒480-0304 春日井市神屋町1番26
TEL(0568)88-7771

● 拠点一覧

- **北日本支店** 〒980-0014 仙台市青葉区本町二丁目2番3号
鹿島広業ビル
- **札幌営業所** 〒001-0011 札幌市北区北十一一条西四丁目1番地44
ベルエアプラザ
- **盛岡出張所** 〒020-0135 盛岡市新大町6番35号
アイビル大新町
- **関東支店** 〒110-0005 東京都台東区上野七丁目2番10号
上野駅前第一生命ビル
- **茨城営業所** 〒305-0032 つくば市竹園二丁目2番地4
第2-ISSEビル
- **北関東営業所** 〒338-0832 さいたま市桜区西堀八丁目21番35号
カタヤマ本社ビル
- **新潟出張所** 〒950-0953 新潟市大島209番地
- **中部支店** 〒480-0304 春日井市神屋町1番26
- **金沢出張所** 〒920-0027 金沢市駅西新町3丁目9番26号
- **松本出張所** 〒390-0852 松本市大字島立399番地1
滴水ビル
- **西日本支店** 〒532-0003 大阪市淀川区宮原四丁目1番14号
住友生命新大阪北ビル
- **岡山営業所** 〒700-0927 岡山市西古松一丁目1番26号
オム第Ⅱビル
- **高松出張所** 〒761-8071 高松市伏石町795番地1
丸忠Ⅲビル
- **九州支店** 〒812-0016 福岡市博多区博多駅南二丁目1番9号
ヤマエ博多駅南ビル
- **広島営業所** 〒731-0138 広島市安佐南区祇園3丁目45番11号
- **宮崎出張所** 〒880-0801 宮崎市老松一丁目3番3号
松屋ビル
- **参道サービスセンター** 〒107-0061 東京都港区北青山三丁目5番17号
はる木ビル

Stock Information

● ● ● 株式情報 (2004年9月30日現在) ● ● ●

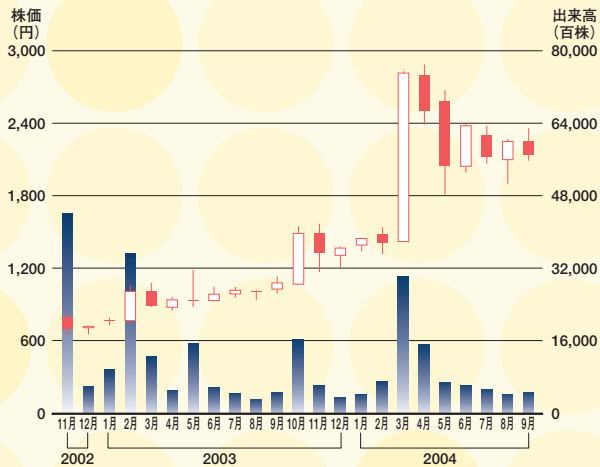
● 株式状況

会社が発行する株式の総数…………… 66,747,000株
 発行済株式総数…………… 14,783,900株
 株主数…………… 2,828名

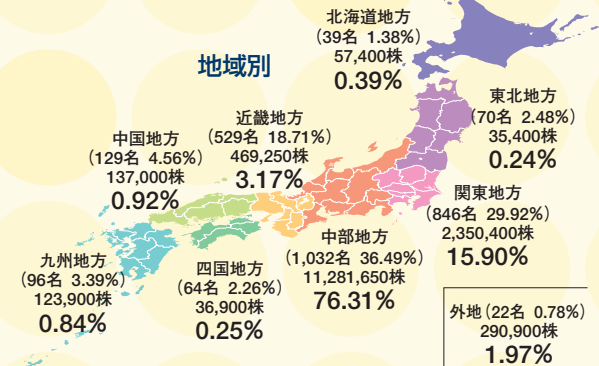
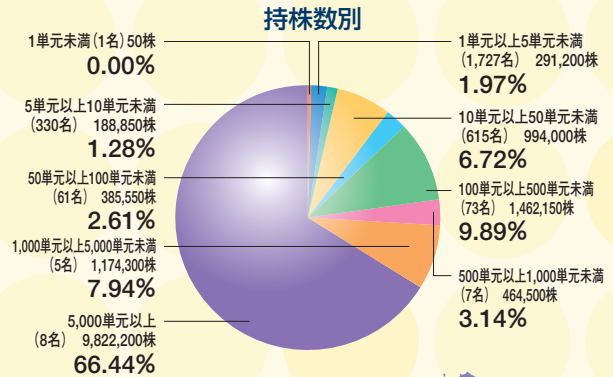
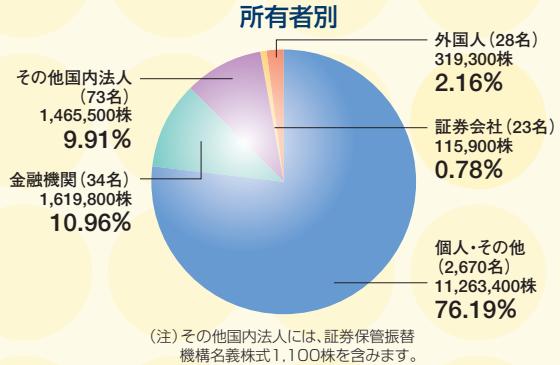
● 大株主

株主名	持株数(株)	議決権比率(%)
栢森 雅勝	2,040,050	13.80
栢森 秀行	2,027,000	13.71
栢森 健	2,025,500	13.70
栢森 隆	1,097,500	7.42
財団法人栢森情報科学振興財団	750,000	5.07
栢森 新治	737,150	4.99
栢森 美智子	626,000	4.23
ダイコク電機従業員持株会	519,000	3.51
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口)	455,600	3.08
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	258,700	1.75

● 株価及び出来高の推移



● 株式分布状況



(注) 持株数別及び地域別の株式分布状況は、証券保管振替機構名義株式1名、1,100株を含みません。

株主メモ

●決算期	3月31日
●定時株主総会	6月下旬
●配当金受領株主確定日	利益配当金 3月31日 中間配当金 9月30日
●基準日	3月31日 その他必要があるときは、あらかじめ公告して定めます。
●名義書換代理人	東京都港区芝三丁目33番1号 中央三井信託銀行株式会社
●同事務取扱場所	〒460-8685 名古屋市中区栄三丁目15番33号 中央三井信託銀行株式会社 名古屋支店証券代行部 TEL. (052)262-1520
●同取次所	中央三井信託銀行株式会社 本店及び全国各支店 日本証券代行株式会社 本店及び全国各支店
●公告掲載新聞	日本経済新聞
●貸借対照表ならびに損益計算書のホームページアドレス	http://www.daikoku.co.jp/investor/kessan.html

〈お知らせ〉

住所変更、单元未済株式買取請求、名義書換請求及び配当金振込指定に必要な各用紙のご請求は、名義書換代理人のフリーダイヤル0120-87-2031で24時間受付しております。

DK **ダイコク電機株式会社**

〒450-8640 名古屋市中村区那古野一丁目47番1号 名古屋国際センタービル2階
TEL (052)581-7111 (代表)
ホームページ <http://www.daikoku.co.jp>